

**私を祝福し、人を祝福しよう！（ルカ 6:27-28）**

私たちに許される一日一日の現実、決して甘いものではありませんが、その中で打ち勝ち、証人としての人生を歩むにはどうすれば良いのでしょうか。まず、信者である自分はキリストにあって、祝福の者であり、自分の努力ではなく、神様が新しく造り変えてくださったことを、ただ信じて、感謝してほめたたえましょう。そのような信仰のカラーを持つことが、勝利のために優先すべきことです。それを最優先していると、心と思いが守られます。そして礼拝を通して、みことばに向かい、修正されることによって、いのちの力が現れ、暗やみの力が砕かれるので勝利するようになります。私が「信じて、感謝して、救いの神様をほめたたえ、自分が幸いな祝福の神の子どもだと確信する」なら、現実、どんなことがあっても問題にはならず、悩む必要も、悩む時間もなくなります。

そのようになったら、その次に、**自分をまごころから実際に祝福**しましょう。これが「味わう」(enjoy)ということです。味わうことを優先していると、まわりの人が見て、不思議に思うようになります。ヨセフを見たポティファルがヨセフになにかがあることを見たようになります。また、パウロが刑務所の中でも天にあるすべての霊的祝福（エペソ 1:3）、つまり、イエスのいのち、神の国を所有していたようになるのです（マタイ 5:3）。それは、すでにキリストによって私に与えられているので、現実、未来に私に具体的に現れるようになります。イエス様は弟子たちに植民地であることは心配なくて良い「あなたがたは知らなくても良いのです」と言われました。そのような心配をする身分ではないということです。そして、神の子どもである信

仰に立って、弱さや状況とは関係なく、ただ聖霊の力を得るようになると言われました。そのことが具体的に自分に現れるように祈るのが自分を祝福することです。私たちは神様との平和を持っていて（ローマ 5:1）、神様の栄光が内に臨んでいるので、それが人生に具体的に現れれば、終わりなのです。過去やいろいろなことを気にせず、内にある神様の栄光が現れるように、自分を祝福しましょう。イエス様も、あれこれ心配するのは、異邦人がすることで、「神の国とその義とをまず第一に求めなさい」と言われました。イエス様が十字架で完了してくださったので、もう終わっています。神の国が臨み、神様の栄光が現れるように願うことが、祈りであり、それがいちばん最初にすべきことです。

神様の栄光が臨むと、自分に刻印されて、根、体質となっている肉、この世のことが暗やみだとわかります。神様をくらませる自分、霊の世界をくらませる肉、永遠の世界をくらませるこの世が、神の国が臨まれると具体的に砕かれます。そして only キリスト、only 神の国、only 聖霊が刻印として自分のものとなります。神様の栄光が臨む神の国が心、思い、脳に豊かに臨むようになります。自分がどうであっても幸いであり、天の御国の所有者であること、私だけにあることにこだわるようになります。Only の契約を握り、神様のみことばに捕らわれ、キリストが主人であり、自分のたましいが聖霊に満たされるようにと祈るのです。パウロはみことばに捕らえられて、とされています（使徒 18:5）。

このような祝福が具体的にになるときに礼拝です。礼拝を通して、御座の祝福、時空超越、237の光が臨みます。その神の国の祝福

を体験して、日々の生活につながるようになります。自分に与えられた祝福が最高の幸せだと保ち、最優先に保つようにしましょう。このような証人としての力を得ると、約束してくださいました。24時そのようになることを神様が願っておられます。新約時代には、老若男女に聖霊が注がれるようになりました。自分で自分を祝福しましょう。どんな人間でも変わることができます。福音の威力を信じましょう。内なる人が強くなるように祈りましょう（エペソ 3:16）。ヨセフは、どんな状況でも内の平安は奪われませんでした。ダニエルは、「いつものように」エルサレムに向かって祈りました。不平不満、言い訳はありません。ファクトがどうであれ、揺れることはありません。神様の祝福を味わう資格と権威があることを覚え、最優先にしましょう。

自分を祝福して、自分が幸せな者だと味わって、正しく祝福が分かると、その次に、**他の人をまごころから祝福する**ようになります。それがクリスチャンのキャラクターです。それがクリスチャンのキャラクターです。237の伝道、宣教につながる者として整えられます。人に会うときは、御座の祝福が豊かに臨むように祈りましょう。なによりも、優先課題は、自分を正しく実際に祝福することです。そうすれば、他の人も祝福するようになります。人を祝福するクリスチャンの人生になることを祈ります。

自分より他の人がまさると見る目を持ちましょう（ピリピ 2:3-5）。神様が祝福され、神様が望んでおられます。イエスのいのちを回復したことを感謝して、まわりの人もたましいが回復して、聖霊の光が臨み、エデンの園の祝福を伝達するように祈りましょう。私たちには、人を祝福する権威があります。祝福して、敵をも愛すのがクリスチャンのキャラクターです（ローマ 12:14、ルカ 6:27-28）。感情ではありません。暗やみとの戦いです。自分の内に臨んだ神様の栄光が、まわりに、暗やみがおおう世に臨むように祝福するのです。神様はすべての人が祝福されることを願っておられます。

結論です。クリスチャンのキャラクターを身につけるように、一日のイメージ（概念）を変えましょう。一日は、祝福するために許されていると、聖霊の充満を求めましょう。学生は勉強しながら、自分に神の国が臨むように祈りましょう。神の国の力が現れると、237の伝道、宣教につながる者として整えられます。人に会うときは、御座の祝福が豊かに臨むように祈りましょう。なによりも、優先課題は、自分を正しく実際に祝福することです。そうすれば、他の人も祝福するようになります。人を祝福するクリスチャンの人生になることを祈ります。

- 1部-ルカ 6:27-28 私を祝福し、人を祝福しよう！  
なるほど/ 外見に惑わされず、福音の中で私を祝福し他の人を祝福する信者は、地上にいなながら神の国の祝福を味わい勝利する。  
ならば/ 今日一日を祝福するために許された日と告白し、時間を決めて、常時、集中して祝福しつつ暮らそう。
- 2部-使徒 19:20 偶像の癒し  
なるほど/ キリストの中で根本の癒しを体験した信者を通して、偶像に騙されている人生を癒し、神の国が現れることを見るようになる。  
ならば/ 現場において崩れた人生を見つけて答えを与える現場教会として立って、現場弟子を探し、現場の魂を生ず信者になろう。